

千葉県におけるアライグマの移入・定着

落合啓二¹⁾・石井睦弘²⁾・布留川 毅³⁾

¹⁾ 千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

E-mail: ochiai@chiba-muse.or.jp

²⁾ 千葉県環境生活部自然保護課

〒260-8667 千葉市中央区市場町 1-1

³⁾ (財)千葉県史料研究財団

〒260-0013 千葉市中央区中央 4-13-10

要 旨 千葉県におけるアライグマ *Procyon lotor* の移入・定着状況を、随時収集資料のとりまとめとアンケート調査によって明らかにした。アライグマの生息情報は、県下 18 市町から 38 件得られた。自然繁殖事例が 7 件 (大原町 5 件, 御宿町 2 件) 得られ、この 2 町においてアライグマが移入・定着した状態にあるものと判断された。繁殖場所は古い農家の母屋、納屋、牛舎の屋根裏や 2 階部分であった。自然繁殖の初記録は 1996 年頃の御宿町実谷での事例であった。千葉県ではペット等の飼育個体の逃亡・遺棄によって、遅くとも 1990 年代後半には野外で繁殖し、定着するようになったものと結論された。

キーワード: アライグマ, *Procyon lotor*, 移入種, 分布, 千葉県。

アライグマ *Procyon lotor* は北米を原産とする食肉目アライグマ科の哺乳類である。体重 1.8~22.0 kg, 頭胴長 41~60 cm, 尾長 19~39 cm であり (Pogla-yen-Neuwall, 1990), 尾に 5~10 本の黒い輪があるのが特徴である。食性は雑食性であり、移入種として定着している北海道では昆虫類, 貝類, 魚類, 両生類, 爬虫類, 鳥類, 哺乳類, サルナシ・ヤマブドウ・ヤマグワの果実, 農作物など多様なものを食している (的場ほか, 2000, 2001)。

日本では 1970 年代後半にテレビ放映されたアニメーション「あらいぐまラスカル」などの影響によって主にペットとして多数が飼育されるようになった。しかし、手先が器用であることから逃亡する例や、成獣になってからの気性の荒さから飼い主が遺棄する例が相次ぎ、野生化するものが各地で生じた。これまでのところ、アライグマの自然状態での繁殖は、岐阜県 (安藤・梶浦, 1985), 神奈川県 (中村, 1991), 北海道 (池田, 1999a) など 6 都道県で確認されている (池田, 2000)。このうち、北海道ではトウモロコシ, メロン, スイカ, イチゴ等に対する被害が大きな問題となっている。北海道におけるアライグマの被害金額は、初めて被害報告が出された 1993 年には 4.5 万円であったものが、1996 年には 669.0 万円, 1998 年には 3107.8 万円と増加の一途をたどっている (北海道空知支庁, 2000a)。北海道ではアライグマの被害に対する協議会が設置され、行政主催のアライグマ問題を考えるフォーラムが 2 度にわたって開催されている (石狩支庁アライグマ被害検討協議会, 1999; 北海道

空知支庁, 2000b)。また、神奈川県では住宅の天井裏や床下に住み着くことによる生活被害が深刻になりつつある (株式会社野生動物保護管理事務所, 2001)。さらには、生態系への影響も懸念され、アライグマの影響によってアオサギのコロニーで営巣放棄が生じた事例が報告されている (池田, 1999a, b, c; 門崎・李, 1999)。この他、アライグマ回虫などの人獣共通感染症を媒介する危険性や、狂犬病の宿主動物となり得る危険性も指摘されている (宮下, 1993; 池田, 1999a; 浅川ほか, 2000)。このように野生化したアライグマは多くの問題を生じさせており、日本哺乳類学会が 1998 年に決議した「移入哺乳類への緊急対策に関する要望書」では、緊急対策を特に要する哺乳類として小笠原諸島・尖閣諸島のヤギ, 沖縄本島・奄美大島のマングースと並んでアライグマが指定されている (哺乳類保護管理専門委員会, 1999)。

千葉県では、1990 年代より野外での生体及び死体の目撃情報が千葉県立中央博物館に複数寄せられるようになった。そして、1998 年に大原町で初めて自然繁殖事例が確認された (布留川, 2000)。そのため、著者らはアライグマの生息について県下全域を対象としたアンケート調査を実施するとともに、これまでに随時収集した生息情報を加え、千葉県における現在のアライグマの移入・定着状況を明らかにした。今回の調査では、複数の繁殖事例が新たに確認され、さらに布留川 (2000) の報告事例よりも前の時点での繁殖事例が確認されたので報告する。

方 法

以下の2方法により、千葉県内におけるアライグマの生息情報（生体及び死体の目撃情報）を収集した。2方法のいずれにおいても、繁殖事例が得られた場合は著者らが現地へ行き、繁殖した家屋の家人への聞き取りを直接行った。

1. 生息情報の随時収集

千葉県立中央博物館の恒常的な情報収集活動により1990～2001年に得られた千葉県内でのアライグマの生息情報をとりまとめた。情報は、著者らによる死体の確認、著者らに寄せられた情報及びその情報に関する聞き取り、新聞記事、の3情報源によった。聞き取りでは、アライグマを確認した時期、場所、確認したときの状況、類似種（タヌキ・アナグマ・ハクビシン）との混同の可能性の有無等について確認した。類似種との混同の可能性がある場合は、アライグマの目立った特徴は何かという質問をし、尾に縞があるという答えが返ってきた場合のみをアライグマの情報とした。

2. アンケート調査

千葉県環境生活部自然保護課と共同で郵送によるアンケート調査を実施した。アンケートの送付先は303であり、県下全域をカバーするようにした。送付先の内訳は次のとおりである：支庁産業課林業（林産）係（発送数10）、市役所・町村役場鳥獣担当係（同80）、千葉県指定獣医師（傷病野生鳥獣の治療協力機関として千葉県に登録してある動物病院、同86）、鳥獣保護員（同127）。アンケート用紙は調査についての説明書きと返信用封筒とともに郵送し、記入後に返送してもらった。アンケートの送付は2001年1月11日に行い、2月2日を締め切りとした。得られた回答のうち、生息情報が得られたすべての回答について、2001年3～5月に電話による聞き取りを行った。電話聞き取りでは、情報の信頼性の判定と内容の確認を行った。情報の信頼性は、アライグマを確認した時期、場所、内容について、具体的な回答が示されるか否かによって判定した。アライグマと類似種の判別は、随時収集情報と同様に尾の縞模様についての言及の有無によった。

送付したアンケートの質問内容は、野外でのアライグマの存在の確認の有無あるいは野外で捕獲されたアライグマの診察の有無、その時期、場所、状況等である（資料参照）。

結 果

1. アンケート回答率と不正確情報率

アンケート調査では送付した303件中、237件で回答があり、有効回答率は78.2%であった。回答率の

内訳は次のとおりであった：支庁100.0%、市役所・町村役場97.5%、指定獣医師61.6%、鳥獣保護員75.6%。

アンケート調査では、当初、アライグマの生息情報として14件の回答が得られた。しかし、電話聞き取りの結果、この内の4件（28.6%）は不正確情報と判断されたため除外した。4件のうちの3件は明らかに他の中型食肉目種と混同したものであり（タヌキ、アナグマ、ハクビシンが各1件）、他の1件は目撃した具体的な場所や時期が示されなかったものである。

2. 繁殖事例と分布

野生化したアライグマの繁殖事例が、夷隅郡の隣接する2町、即ち大原町で5件、御宿町で2件の計7件（延べ繁殖例数にすると10例）得られた（表1）。この7件のうち、最も早い時期の繁殖事例は1996年頃（1995～1997年の間）に御宿町実谷で確認された例であった（表1-No.1の事例）。7件の繁殖地点は、直線距離にして最大約7kmの範囲内に位置していた。大原町の下布施と小池では同一集落内で各2件の繁殖事例が得られた。この2集落では、繁殖が確認された家の他にも、屋根裏に出入りする動物がいるとの情報が得られた（下布施で2件、小池で1件）。

繁殖が確認された場所はいずれも古い農家であり、居住中の母屋が3例、空き家の母屋が2例、納屋が4例、牛舎が1例であった。アライグマは母屋や納屋の屋根裏や屋根部分（茅葺きとその上に張ったトタンの間）（6例）、納屋や牛舎の2階部分（3例）、それに母屋2階の押し入れ（1例）をそれぞれ繁殖に利用した。子どもが目撃された時期は3～5月頃であり、育児途中で子どもが捕獲された1例では同じ個体によるその年2回目と思われる繁殖が6～7月に行われた（表1-No.5の事例）。繁殖が行われた7軒の家すべてにおいて、アライグマが家屋を利用したのは繁殖期にあたる春だけであり、それ以外の季節に姿を見たり、物音を聞いたりすることはなかった。確認された子どもの数は、2頭が1例、3頭が3例、4頭が3例、5頭が2例、不明が1例であった。繁殖が行われた家では、夜間の天井裏での物音による睡眠妨害、大小便による悪臭と天井板の汚れ、よじ登ることによる柱や壁の傷が被害としてあげられた。また、繁殖地点周辺の畑では、近年トウモロコシ、トマト等の被害が激化したとの話が聞かれたが、アライグマによるものかは不明であった。アンケート結果によれば、繁殖が行われた大原・御宿の2町の町役場の鳥獣担当係は、御宿町の繁殖事例1件を除き、これらの繁殖事例や被害を把握していなかった。

以上の7件の繁殖事例の他、31件の情報が得られた（表2）。その内訳は、生体捕獲が13件、生体目撃が9件、死体目撃が9件であった。生体捕獲のうちの

表 1. 千葉県におけるアライグマの自然繁殖情報. 繁殖場所はいずれも家屋であり, 情報の内容は繁殖した家屋の家人への聞き取り調査による.

No.	調査種別	年月	場所	メッシュ番号*	情報の内容	備考
1	アンケート調査	1996 頃の春	御宿町実谷	6475	農家の納屋の屋根裏で繁殖した(親 1 頭, 子ども 4 頭目撃). 気がついてから 2~3 週間でいなくなった. その翌春にも納屋に来たが, すぐいなくなった. 3 年ほど来なかったが, 2001 年春にまた来て, 数日でいなくなった.	繁殖が行われた時期は 1995~1997 年の間である.
2	随時情報収集	1998 春	大原町釈迦谷	6429	農家の空き家の屋根(茅葺きとその上に張ったトタンの間)で繁殖した(親 1 頭, 子ども 2 頭目撃). 子ども 1 頭を捕まえて, 知人が飼育したが, 逃亡した. アライグマはその 5 年ほど前から出没していて, アオダイショウを捕まえたことがあった. 改築したら, その後は来なくなった.	布留川(2000)にて報告済み
3	随時情報収集	1999/5	大原町下布施 (大寺地区)	6448	農家の母屋の屋根裏で繁殖した(親 1 頭, 子ども 3 頭目撃). 4 頭全部捕まえた. 子どもはネコよりも大きい位だった. 天井裏の物音は 5 年くらい前からしていた. 屋根の出入口をふさいだら, その後は来なくなった.	撮影写真あり.
4	随時情報収集	1999/5 頃と 2000/5 頃	大原町小池	6560	1999 年は農家の母屋の屋根裏, 2000 年は納屋の屋根裏で繁殖した. 両年とも子どもは 3 頭で, 捕まえて御宿町岩和田に捨てた. 1999 年は目が開いておらず, 2000 年はもう少し大きかった. 屋根の出入口をふさいだら, 2001 年は来なかった.	No. 5 の事例の家と隣り同士.
5	随時情報収集	2000/4~5 頃と 2001/4~5, 6~7	大原町小池	6560	2000 年と 2001 年 4~5 月は農家の納屋の 2 階, 2001 年 6~7 月は隣接する牛舎の 2 階で繁殖した. 2000 年と 2001 年 4~5 月は子ども各 4 頭を捕まえて, 大原町岩船に捨てた. 2001 年 6~7 月にまた繁殖したが, 線香でいぶしたり, ラジオをつけっぱなしにしたら子どもをつれていなくなった.	大原町岩船の遺棄地点で子どもが拾われている(両年とも少なくとも 2 頭ずつ). 2000 年 5 月に拾われた 1 頭は約半年間の飼育後に逃亡した. 同年に拾われた 1 頭は現在も飼育されている. 2001 年に拾われた 2 頭は 1 週間ほどで死亡した.
6	随時情報収集	2001/3 頃	御宿町上布施	6456	農家の空き家の 2 階の押し入れに置いてあった布団に子どもが 5 頭いた. 親は見えていない.	
7	随時情報収集	2001/3~4 頃	大原町下布施 (大寺地区)	6439	農家の母屋の屋根(茅葺き-トタンの間と屋根裏)で繁殖した(親 1 頭, 子ども 5 頭目撃). 親は 21~22 時くらいに外に出ていき, 3~4 時頃に戻ってきた. 子ども 4 頭を捕まえた. 子どもはネコよりも小さい位だった.	No. 3 の事例の家から 500 m ほど離れた所にある家.

* 千葉県メッシュマップ(千葉県立中央博物館, 1990)による.

表 2. 千葉県におけるアライグマの生息情報。表 1 に示した繁殖情報以外の情報を表示した。飼育されていたことが明らかな場合は、情報の内容の覧に（飼育由来個体）と記した。

No.	調査種別	年月日	場所	メッシュ番号*	情報の内容	情報源
1	アンケート調査	1990	船橋市習志野台	2544	警察から連絡があって捕獲した。人に慣れていた。別の人が飼ったが、2 か月ほどで死亡した。（飼育由来個体）	鳥獣保護員
2	アンケート調査	1991	光町篠本	2869	役場職員が生体を目撃した。	光町役場（伝聞情報）
3	アンケート調査	1993	東金市油井	4027	2 頭づれの生体を目撃した。	鳥獣保護員
4	随時情報収集	1994/9/17	柏市南増尾	1627	住宅街で捕獲された。同日、飼い主に引きとられた。（飼育由来個体）	千葉日報（1994. 9. 18）
5	随時情報収集	1995/5/18	柏市南逆井	1638	住宅街で捕獲された。翌日、飼い主に引きとられた。（飼育由来個体）	朝日新聞（1995. 5. 19）、千葉日報（1995. 5. 20）
6	随時情報収集	1995/6/3	千葉市稲毛区長沼町	3319	檻に入れられて置き去りにされていた。（飼育由来個体）	千葉日報（1995. 6. 6）
7	随時情報収集	1995/6/12	沼南町片山	1095	寺で捕獲された。首輪をしており、人に慣れていた。（飼育由来個体）	千葉日報（1995. 6. 15）
8	随時情報収集	1995/9/6	白子町北日当	4549	民家の庭で捕獲された。人に慣れていた。（飼育由来個体）	千葉日報（1995. 9. 11）
9	随時情報収集	1995 頃	東金市極楽寺	3556	生徒の家の庭に頻繁に現れた。	東金市立北中学校教諭
10	アンケート調査	1995 頃	夷隅町（地名不明）	不明	捕まえて連れてこられた個体を診察した。	指定獣医師
11	随時情報収集	1997	長柄町（地名不明）	不明	畑を荒らしたのでワナで 2 頭捕獲した。1 頭はその後放した。	千葉県職員（伝聞情報）
12	アンケート調査	1998/7/21	市原市萩作	4402	人家に入ろうとしていたものを捕獲した。	市原市役所・鳥獣保護員
13	随時情報収集	1998/9	夷隅町須賀谷	5804	生体を目撃した。	いすみ環境と文化の里職員
14	随時情報収集	1999/9	市原市鶴舞	5045	友人の家のカキノキに 2 頭登っているのを目撃した。	千葉市加曾利貝塚博物館職員
15	随時情報収集	1999/10/8	長柄町鶴谷	4498	死体を目撃した。死体を中央博物館で保存。	千葉県立中央博物館職員
16	アンケート調査	1999	木更津市（地名不明）	不明	捕まえて連れてこられたが、車から降りるときに逃亡した。	指定獣医師
17	随時情報収集	1999 頃	勝浦市新戸	6484	ごみ捨て場で生体を目撃した。	御宿町町民（表 1-No. 1 の家人）
18	アンケート調査	2000/3	市原市天羽田	4383	死体を目撃した。	鳥獣保護員
19	随時情報収集	2000/5/14	大原町北寄瀬	6500	死体を目撃した。撮影写真あり。	著者（布留川）、布留川（2000）にて報告済み
20	随時情報収集	2000/8/31	勝浦市小羽戸	6481	死体を目撃した。	房総のシカ調査会調査員
21	随時情報収集	2000/9/17	大原町小池	6550	死体を目撃した。死体を中央博物館で保存。	著者（布留川）、布留川（2000）にて報告済み
22	随時情報収集	2000/12 頃	大原町岩船	6551	2000 年 5 月に幼い子どもを拾い育てるが、約半年後に逃亡した。拾った地点は、大原町小池で捕獲後に遺棄した地点と同じであり、同一と判断された（表 1-No. 5 の事例参照）。（飼育由来個体）	大原町町民
23	アンケート調査	2000	多古町北中	2089	生体を目撃した。	鳥獣保護員
24	アンケート調査	2000	君津市平山	5675	知り合いがワナで捕まえた。縞模様のある尾をとってある。	鳥獣保護員（伝聞情報）
25	随時情報収集	2001/5/31	夷隅町須賀谷	5805	死体を目撃した。死体を中央博物館で保存。	著者（布留川）
26	随時情報収集	2001/6/3	大原町小池	6560	死体を目撃した。死体を中央博物館で保存。	著者（布留川）
27	随時情報収集	2001/7/31	長南町深沢	5027	死体を目撃した。撮影写真あり。	千葉県民
28	随時情報収集	2001/8/23	市原市佐是	5000	2 頭が電柱に登っているのを目撃した。屋根の上に糞がある。	市原市市民
29	随時情報収集	2001/8/27	勝浦市苗代原	6445	1 頭を捕獲した。家の近くにまだ 2 頭くらいいる。撮影写真あり。	勝浦市市民
30	随時情報収集	2001/11/3	岬町下ノ原	5912	死体を目撃した。死体を中央博物館で保存。	著者（布留川）
31	随時情報収集	2001/11/22	大多喜町小土呂	5738	生体を目撃した。	勝浦市市民（No. 29 と同一人物）

* 千葉県メッシュマップ（千葉県立中央博物館，1990）による。

1件は、自然繁殖した子どもを捕まえて別の場所に遺棄し、それを拾った人間が約半年間飼育した後に逃亡された事例である（表1-No. 5 及び表2-No. 22の事例）。その他、6件の生体捕獲例（表2-No. 1, 4～8の事例；1990年1件、1994年1件、1995年4件）も、“人に慣れていた”、“飼い主が現れた”、“首輪をしていた”、“檻に入れられていた”などの情報から、ペット等として飼育されていた個体が逃亡ないし遺棄されたものと判断された。

全部で38件の生息情報は県下18市町から得られた（図1）。繁殖が確認された大原町・御宿町のうち、大原町では交通事故による死体が3体確認された。また、この2町に隣接する3市町でも生息情報が得られた（勝浦市3件、夷隅町2件、岬町1件）。さらに、市原市、長柄町、東金市でも複数の情報が得られた。

考 察

今回の調査の結果、千葉県においてアライグマが大原町と御宿町で自然繁殖していることが明らかになった。7件の繁殖地点は最大でも約7kmの範囲内に位置し、その付近では複数の死体も確認されている。このような状況より、少なくとも大原町から御宿町にかけての地域において、アライグマがすでに移入・定着した状態にあるものと判断された。さらに、この2町に加え、この2町から連続的に位置する勝浦市、夷隅町、岬町、大多喜町、長南町、長柄町、市原市、君津市、木更津市の各市町でも生息情報が得られた。そのため、アライグマが移入・定着した範囲は今回繁殖が確認された大原・御宿の2町にとどまらず、さらに広域である可能性も考えられた。

これまで千葉県におけるアライグマの自然繁殖の初記録は、布留川（2000）が報告している1998年の大原町釈迦谷での事例（表1-No. 2の事例）であった。今回の調査では、それよりも2年ほど前の1996年前後に御宿町実谷で繁殖した事例が確認された。現在のところ、千葉県での自然繁殖の初記録はこの事例である。ただし、大原町の釈迦谷や下布施では繁殖が確認された1998～1999年の5年ほど前からアライグマの出没は始まっており、今後の調査によって繁殖開始時期がさらにさかのぼる可能性も残されている。現時点の結果によれば、千葉県では遅くとも1990年代前半には飼育アライグマの逃亡・遺棄事例が相次いで生じ、遅くとも1990年代後半には野外で繁殖し、定着するようになったものと結論された。

千葉県におけるアライグマの生息は、ペット等として飼育されていて逃亡したか、あるいは飼いきれなくなって野外に遺棄された個体が移入源になっていると考えられた。このようなケースの一端は、今回得られた7件の飼育由来個体の事例で示されている。このうちの1件は、自然状態で繁殖して捕まえられた子ども

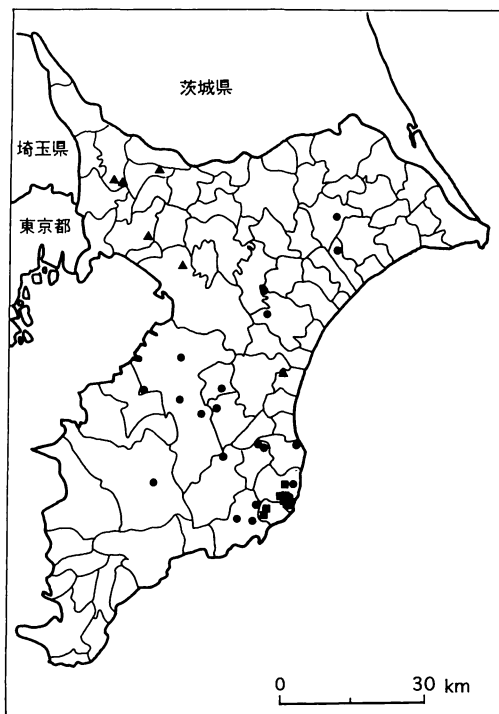


図1. 千葉県における野外でのアライグマの情報の分布。■，自然繁殖情報；▲，飼育されていたことが明らかな個体の情報；●，その他の情報。木更津市、長柄町、夷隅町における情報各1件は位置が特定できなかったため、図示していない。

が別の場所に遺棄され、拾った人間によって育てられた後に逃亡するという事例であった。北海道では野生化したアライグマが捕獲され、これが他地域に人為的に運ばれて再度逃亡・遺棄が生じている可能性が指摘されている（池田，1999a）。今回確認された事例は、同様のことが千葉県でも生じていることを示す1例であった。なお、大原町、御宿町における聞き取り調査では、この地域ではアライグマのような目新しいペットを飼うような人が多いのかという問いに対し、都会の方から捨てに来るのだろうという回答を複数得たが、実態は不明である。

北海道では1979年に10頭程度の野生化が生じた後、10年程度は被害がほとんど目立たない状態にあった。しかし、その間に食物条件と越冬条件のよい酪農地帯が繁殖の温床となり、1990年代に被害の増加、分布域の拡大、市街地への侵入が顕著となった（池田，1999a）。神奈川県鎌倉市でも1988年頃に初めの野生化が生じた後、10年間ほどは問題にならなかったが、市役所に寄せられたアライグマに関する相談や苦情の件数は、1998年の8件から、1999年の103件、2000年の340件以上と急増した（株式会社

野生動物保護管理事務所, 2001). 千葉県では、アライグマの生息は繁殖が確認された地元でもごく一部の人間しか認識しておらず、繁殖の事実も町役場の担当係でさえほとんど把握していない現状にある。しかし、大原、御宿の両町ではアライグマが繁殖場所として利用する古い農家が多く、栄養価の高い畑作物も食物として利用されている可能性が高い。そのため、北海道や神奈川県での事例と同様に、千葉県でも今後アライグマによる被害問題が急速に顕在化する恐れがある。移入種の対策は早ければ早いほど効果的であり、アライグマ対策に向けて移入・定着した範囲をより正確に明らかにする調査が早急に必要である。

謝 辞

アンケートに回答いただいた方々、ならびに情報を寄せていただき、聞き取り調査にご協力いただいた方々に感謝申しあげる。内部資料の文献引用を御許可いただいた神奈川県緑政課、および原稿を査読していただいた千葉県立中央博物館の浅田正彦博士に厚く御礼申しあげる。

引用文献

- 安藤志郎・梶浦敬一. 1985. 岐阜県におけるアライグマの生息状況. 岐阜県博物館調査研究報告 6: 23-30.
- 浅川満彦・的場洋平・山田大輔・神山恒夫. 2000. 北海道野幌森林公園を中心に生息する移入種アライグマの寄生蠕虫類を中心とした病原生物とその伝播に関わる食性—その調査の進捗状況と今後の方向性—. 酪農学園大学紀要 25(1): 1-8.
- 千葉県立中央博物館. 1990. 千葉県メッシュマップ. 77 pp. 古今書院, 東京.
- 布留川 毅. 2000. 千葉県にもアライグマ. 千葉生物誌 50(2): 36.
- 北海道空知支庁. 2000a. アライグマ被害対策ハンドブック. 8 pp. 北海道空知支庁, 岩見沢市.
- 北海道空知支庁. 2000b. 「アライグマをはじめとする移入動物問題を考える」—フォーラム報告書—. 56 pp. 北海道空知支庁, 岩見沢市.
- 哺乳類保護管理専門委員会. 1999. 移入哺乳類への緊急対策に関する大会決議. 哺乳類科学 39: 115-129.
- 池田 透. 1999a. 北海道における移入アライグマ問題の経過と課題. 北海道大学文学部紀要 47(4): 149-175.
- 池田 透. 1999b. 北海道における移入アライグマ問題. 森林保護 (269): 2-3.
- 池田 透. 1999c. 野幌森林公園におけるアライグマ問題について—門崎・李氏の見解に対して—. 森林保護 (272): 28-29.
- 池田 透. 2000. 移入アライグマの管理に向けて. 保全生態学研究 5: 159-170.
- 石狩支庁アライグマ被害検討協議会. 1999. アライグマによる農業等被害防止の手引き. 59 pp. 北海道石狩支庁, 札幌市.
- 株式会社野生動物保護管理事務所. 2001. 平成 12 年度移入動物の生息分布調査報告書. 44 pp.+添付資料. (神奈川県緑政課への委託調査報告書, 未印刷)
- 門崎允昭・李 宗鴻. 1999. 野幌森林公園でのアライグマによるアオサギの駆逐. 森林保護 (271): 23-24.
- 的場洋平・赤松里香・浅野 玄・横山祐子・松立大史・

- 向井栄仁・外山雅弘・相部美和・池田 透・堀繁久・安島美穂・浅川満彦. 2000. 北海道野幌森林公園に生息するアライグマの特に夏期における食性. In 日本哺乳類学会 2000 年度大会プログラム・講演要旨集, p. 134.
- 的場洋平・増淵寿子・浅野 玄・上山剛司・松本 歩・樺澤美奈・松立大史・赤松里香・石亀 豪・向井栄仁・堀繁 久・池田 透・浅川満彦. 2001. アライグマの寄生虫相および食性に関する調査の中間報告—特に寄生原虫と秋期および冬期の食性について—. In 日本哺乳類学会 2001 年度大会プログラム・講演要旨集, p. 142.
- 宮下 実. 1993. アライグマ 蛔虫 *Baylisascaris procyonis* の幼虫移行症に関する研究. 生活衛生 37: 137-151.
- 中村一恵. 1991. 神奈川県におけるアライグマの野生化. 神奈川自然誌資料 (12): 17-19.
- Poglayen-Neuwall, I. 1990. Procyonids. In Grzimek, B. (ed.), Encyclopedia mammals vol. 3, pp. 450-468. McGraw-Hill, New York.

(2002 年 2 月 14 日受理)

Invasion and Distribution of the Raccoon, *Procyon lotor*, in Chiba Prefecture, Central Japan

Keiji Ochiai¹⁾, Mutsuhiro Ishii²⁾
and Takeshi Furukawa³⁾

¹⁾ Natural History Museum and Institute, Chiba
955-2 Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8682, Japan
ochiai@chiba-muse.or.jp

²⁾ Nature Conservation Division, Environmental and
Community Affairs Department, Chiba
Prefectural Government
1-1 Ichiba-cho, Chuo-ku, Chiba 260-8667, Japan

³⁾ Chiba Historical Materials Research Foundation
4-13-10 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-0013, Japan

The raccoon, *Procyon lotor*, is an alien species in Japanese fauna. Distribution of the raccoon in Chiba Prefecture, central Japan, was examined by the following two methods: 1) gathering of distribution records based on sightings of bodies or live individuals from the sources of information such as confirmations by authors, personal communications with local naturalists and news paper articles from 1990 to 2001, and 2) a questionnaire survey conducted in 2001 on local civil servants, animal clinics and wildlife guards. Thirty-eight records of the raccoon distribution were obtained from 18 cities and towns. Seven records of reproduction in the wild state, which were found in Oohara town (5 cases) and Onzyuku town (2 cases), showed that a raccoon population has invaded in this area. The first record of reproduction in Chiba Prefecture was from Onzyuku town in 1996. Raccoons bred in the roof-space of old farmhouses.

資料.

野生化アライグマについての質問 (市役所・町役場用, 支庁用も兼用)

(1) 貴市町村内において、これまで野外でアライグマの存在が報告されたことがありますか？

・ある ・ない

「ある」と回答した方にお聞きします（複数ある場合は、申し訳ありませんが、それぞれ
区別できるようにお答えください。）

(2) それは、いつのことですか？ _____年

(3) アライグマのいた場所は？ _____市町村の_____のあたり

(4) 状況は？ ・死んでいた ・衰弱したものを保護した ・目撃された

(5) その個体の由来は？ ・逃げ出した飼育個体 ・野生化している個体 ・不明

野生化アライグマについての質問 (指定獣医用)

(1) これまで野生化したものと思われるアライグマを診察したことがありますか？

・ある ・ない

「ある」と回答した方にお聞きします（複数ある場合は、申し訳ありませんが、それぞれ
区別できるようにお答えください。）

(2) それは、いつのことですか？ _____年

(3) アライグマが保護された場所は？ _____市町村の_____のあたり

野生化アライグマについての質問 (鳥獣保護員用)

(1) これまで野外でアライグマの存在を自ら確認したことがありますか？

・ある ・ない

「ある」と回答した方にお聞きします（複数ある場合は、申し訳ありませんが、それぞれ
区別できるようにお答えください。）

(2) それは、いつのことですか？ _____年

(3) アライグマのいた場所は？ _____市町村の_____のあたり

(4) 状況は？ ・死んでいた ・衰弱したものを保護した ・目撃された

(5) その個体の由来は？ ・逃げ出した飼育個体 ・野生化している個体 ・不明